

## 「努力の先にあるものは」

打田中学校 3年 高橋 葵

「98、99、100。」毎日バットを100回振ることが私の日課でした。何日かは続きましたがやる気が出なくなりました。

3年の春季大会、打席に入り、監督からバントのサインが出ました。私は安心しました。なぜなら打席に立つとさっきまであったはずの遠くに飛ばせる成功イメージが一瞬にして消え去り、自信がなくなってしまうからです。バントは一発で決まらず、次はゴロを打てのサイン。なんとか自信を奮い起こしてみました。結果は三振。毎日もっとバットを振ればよかった、バントで喜んでいて自分が惨めだと思いました。

もしも私が毎日素振り100回をし続けていたら…。私はこの大会で良いあたりのヒットを打っていたかもしれない。もっとこうすればどうだったのといった技術的なヒントを得てはりきっていたかもしれない。弱い自分に占領された心によってプラスに進めていないのは、自信につながる安心材料が足りていないからだということに気づきました。

私が毎日素振り100回の日課を辞めたのは、最近打てないと思ったときです。私は素振りは努力、努力すれば成功する、成功するから絶対打てると思っていました。だけど良いあたりの出ない現実を見て、効果はあるのかなと疑問に思いはじめました。また試合のときにチャンスで良いバッティングをする子と自分のレベルの違いを気づかされて、これは努力ではなく、才能が関わっているのではないかと感じてしまいました。

素振りをして、失敗したときの悲しみと悔しさは何もせず失敗したときの何倍もつらいです。他人と比べてしまえばもっとその気持ちは深まります。だから私はやる気を失っていきました。

私は悲しいも悔しいも感じたくありません。だけど、努力せず失敗したらプラスで惨めさも加わります。そうだったら、努力できている自分を誇りに思いながら悲しみと悔しさを味わうほうがいいです。結果にこだわるのは辞めるべきだと思いました。それにネガティブ思考はほとんど自分を暗くさせられますがポジティブ思考は限界以上に自分を明るくさせます。安心材料を手に入れ、常に良いイメージを持つことでポジティブ思考を保つことも重要だと思いました。

私はこの出来事から、努力は報われないことがあるけれどやらないと惨めになるということを学びました。努力の先には常に確かな希望を持ち、失敗したらポジティブにやり直す気持ちを持つと決心しました。悲しみや悔しさは努力

したことによる損ではなく、次の一步に進む追い風だと思って、失敗を恐れません。

この先、高校受験でくじけることが何度もあると思います。見えない未来に怖さを感じて気持ちの整理ができない日もあるかもしれません。そんなときは、自分の努力と希望を信じてさまざまな困難に立ち向かいます。時間さえあれば頑張れるのだから、日々前進できるように勉強していきたいです。

いつか大きな成功をし、人に努力することのすばらしさを伝えることが私の人生の目標です。才能も失敗も忘れて目の前のことにはげめばいい。努力が報われなくても本来の目的とはまた違ったところで活躍してくれることがあると願って自分を信じ続けたいです。満足いく自分であるために精一杯毎日を過ごします。

